

光受寺通信

NO.194

R7.3.1 発行

発行元 光受寺



物価の高騰が止まりません。

米の価格上昇率には驚くばかりですが、野菜やガソリンといったものまでの軒並みの値上がりには、悲鳴が上がりま
す。特に年金生活者にとっては節約と我慢の限界が見えて、
行く末の不安はつるばかりです。

しかし、そんな状況であっても景気の良い話もあるもので
す。先月のバレンタインデーでは一人で何万円ものチョコレ
ートを買う人がテレビに映し出されていました。「自分への
ご褒美」と嗜好品(しこうひん)に多額のお金を使える人
がうらやましく思えましたが、決して気分の良い話ではあり
ませんでした。一円でも節約したいと悪戦苦闘して生活して
いる人とのあまりの違いに驚かされてしまったからです。

さて、弥生3月には、「お彼岸」を迎えます。「お彼岸」は
一般的にはご先祖の供養をする仏事とされていますが、私た
ちの浄土真宗では亡き人に供物を捧げ、追善することで自分
の幸せを祈願する行事ではありません。

「彼岸」とは阿弥陀仏の「浄土」を指しますが、「浄土」は
私たちが還っていく世界であると同時に、迷いの世界(此岸)
に生きる私たちのあり方を照らし出し、本当に「その生き方
でよいのですか」とはたらきかけてくる世界のことでもあり
ます。お彼岸には浄土へ還って行かれた人を偲ぶとともに、
改めて自分の生き方を振り返る大切な時なのです。

光受寺におきましても春季永代経のお勤めがござい
ます。是非このご縁に出会っていただけますことを切に願って
お祈りします。

春季永代経 三月二十日(木) 春分の日

午前・午後 お齋あり

法話 住職・若院

本年最初のお寺の行事となります。

永代経は、私たちが故人を縁として、永代にわたってお経をあげる法要で
す。先祖代々受け継がれてきた仏教の教えを子孫や後の世の人々まで伝
えることを願ってお勤めをするのです。

▼ついでに

俱会一処… 「俱会一処」とは、『仏説阿弥陀経』に出てくる「俱(とも)
に一つの処(ところ)で会(あ)う」という文(もん)で、同じ阿弥陀さまの
お浄土でまた共に会わせていただくという意味です。ご先祖の願いを聞いてい
くご縁にぜひご参拝ください。

飛龍梅の芽が出ず残念に思う

水野口出夫

今年令和7年も節分を過ぎ2月中旬となりました。この時季には梅の開花
が待たれますが、光受寺の飛龍梅は昨年の春に新芽が出なかったことから、ど
うやら今年はその美しい花は見られないようで、誠に残念です。

盛んな頃には新聞の一面にも掲載されて、多くの方が多方面から観梅に來ら
れたのですが、今年はその期待に応えられずもありません。ただ、境内に
はほかに多くの梅があり、春の草花も植えられていますので、楽しんでいた
だけたらと思います。

梅の花は、私たちが身近に春を感じる花の代表ともいえますが、まだまだ寒
い日も続くと思います。野に咲く草花も春を待ち望み、じっと地中で耐えてい
ることでしょう。

3月になれば桜も咲き始め、本格的な春がやってきます。あと少しの辛抱で
す。

歎異抄 12章 その2

せんじゆねんじゆ

ごんじゆい

ごんじゆい

専修念仏（浄土門）の人と、自力聖道門の人との諍論についての2回目となりまして。

お念仏一つで救われていけると信じている人と、学問をし、厳しい修行をしてこそ救われていけるのだと信じている人とが法論を戦わせ、我が宗こそが優れていると主張することから、敵も起り念仏をそしる人も出てくるのだと戒められている部分です。

抜粋本文 われもひと、生死をはなれんことこそ、ご本意におわしませば御さまだけあるべからずといへ、ごいさせずば、たれのひとがありて、あたをなすべきや。

意識 仏方は、相手に応じて「生死の迷いを離れる」ことを導いておられるのですから、邪魔することは無いのではないのでしょうか、などと相手が腹を立てないような言い方を考えて破邪顕正（邪道をうちやぶり、正しい道理を世の中にあらわし広める）すれば、だれが念仏する人々に対して、そしる人がありましようか、と。

また、争いのある所には、もろもろの煩惱が起るから、知恵ある人は、

その場を遠ざかりなさいという言葉もあるから、よくよく聞いておきなればならないとも、念をつかれ、戒められています。
補足学習 ユーチューブ動画 梯 実圓師
「阿弥陀様の話」をとおして「生死の迷いを離れる」とはごいいうことが、を学びました。

大切に保存されていた法語カレンダー

昨年お亡くなりになった関谷高行さん。先日、百か日法要にお伺いした折、寺から配布した法語カレンダーが、何冊も床の間に保存されているのを目がとまりました。

2009年からずっと大切に保管されていたようです。どんなものでも物を大切にされていた関谷さん、仏法にもご縁が深く、光受寺の十日講の役員としても長い間お世話になっていました。大切にされていた訳は、「法語」が書かれていることからでしょうが、ご自身の生きる確かめでもあったからでしょう。



私は改めて一枚一枚の法語を読み返してみました。なぜか所々に折り返しが見られることに気がきました。そして、ああ、きっとこの言葉を深くいただかれたことだったのだらうと、思いました。

その言葉を今月の掲示板に掲載するつもりでした。

お知らせ

○ 今月の学習会

○ 今月の「お寺サロン」

永代経等行事のためお休みとなります。

4月より再開します。

今月の掲示板

事実を

大切に

引き受けて

生きる

法語カレンダーより

人生、生きていければ、様々な出来事に出会う。自分に都合の良いことも悪いことも。全てが自分にとっては「お念仏をいただく」ための大切なご縁である。そのまま引き受けて生きていくのだ。という強い決意が伺える言葉です。晩年は闘病生活が続きましたが、93歳の「命終」でした。あしがついでに書きました。